

I. 2019年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、2010年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、2019年4月1日から2020年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。
- (2) 2019年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (2) PIセットアップ研究助成(本年度休止) 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞（第17回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第36回高峰カンファレンス）

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成を実施し、PIセットアップ研究助成は休止とした。

2. その他について

(1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より2019年4月19日、指定寄附金として1億4千5百万円を受領した。

(2) 主要事業活動報告

- ①2019年4月19日の第19回選考委員会において、2019年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成の候補者並びに第17回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
- ②2019年5月17日の第17回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者を決定した。

- ③2019年5月28日の第34回理事会において、2018年度の事業報告及び決算報告書、2019年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成者の決定、第17回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、理事退任に伴う新理事候補者推薦、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。
- ④2019年6月18日の第13回評議員会において、2018年度決算報告、理事退任に伴う新理事選任の各件について審議され、承認された。
- ⑤2019年6月21日、内閣府に2018年度事業報告等の提出を行った。
- ⑥2019年6月28日のみなし決議による第35回理事会において、常務理事を選出した。
- ⑦2019年7月4日、内閣府に役員変更に伴う変更届の提出を行った。
- ⑧2019年10月4日、内閣府の立入検査が行われた。
- ⑨2019年10月18日の第20回選考委員会において、2019年度研究助成候補者及び2020年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、2020年度海外留学奨学研究助成については、2019年11月15日に面接を実施し、内定者（5名）を選出した。
- ⑩2019年11月26日に第36回高峰カンファレンスを筑波大学と共催にて開催した。
- ⑪2019年12月2日の第36回理事会において、2019年度研究助成者決定、2020年度海外留学奨学研究助成者決定、2020年度事業推薦・応募要領、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について審議され、承認された。なお、海外留学奨学研究助成者に関しては、5名の内2名が辞退したため、理事会で承認された手順に従い追加の面接・採択を行った。
- ⑫2020年2月5日の第37回理事会において、2020年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて審議され、承認された。
- ⑬2020年2月5日に第17回高峰記念第一三共賞の贈呈式を開催した。
- ⑭2020年2月18日、内閣府に2020年度事業計画等を提出した。

(3) 人事関係

- ①2020年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は理事16名、監事2名。評議員は9名。選考委員は20名。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は任期満了に伴う改選が行われ、6名（全員が重任）。顧問は8名、職員は3名（前年比1名増）。
- ②2019年6月18日の第13回評議員会において、金子次男常務理事が退任し、高橋正明が新理事に選任された。2019年6月28日のみなし決議による第35回理事会において、高橋正明理事が新たに常務理事に選任され、7月1日付で就任した。
- ③高峰記念第一三共賞審査委員について、2019年12月2日の第36回理事会において任期満了に伴う改選が行われ、6名全員が重任した。

④職員について、高橋正明・菅家喜之の両氏が2019年4月1日付で第一三共株式会社から出向により当法人へ職員として着任した。金子次男氏が2019年8月31日付で退職した。

(4) その他

2019年度研究助成合同面談会は新型コロナウイルス感染防止のため、3回予定していたが、第2回及び第3回を中止した。(第1回を2020年2月19日に開催)

Ⅱ. 2019年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条 (1))	55,000千円	2018年度 @100万円×25件 2019年度 @100万円×30件
	(2) PIセットアップ研究助成 (定款第4条 (1))	－千円	@300万円/件 (本年度休止)
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条 (2))	3,500千円	@50万円×7件
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条 (3))	1,500千円	@50万円×3件
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条 (4))	24,600千円	2018年度 @50万円×6回×4件 2019年度* @300万円×1件 @50万円×6回×2件 @30万円×6回×2件
	その他助成事業費	24,512千円	印刷製本費、諸謝金、賃借料、 旅費交通費等
	助成事業計	109,112千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条 (5))	11,195千円	第17回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに 関連するシンポジウム開催 (定款第4条 (5))	2,743千円	第36回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,156千円	会議費、旅費交通費、諸謝金、 委託費等
	研究業績褒賞事業計	23,094千円	
	合計	132,206千円	

*2019年度は留学先の要請による300万円一括交付や留学先での適正賃金の限度内で他財団からの助成金との重複受給を可能にするために助成金交付金額などの交付方法を変更した。

2. 助成事業 (公1)

2.1 研究助成 (定款第4条 (1))

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

①研究助成

②PIセットアップ研究助成 (本年度休止)

(3) 募集対象

①研究助成

日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀かつ最先端の研究をする50歳未満（2019年4月1日現在）の研究者。

②PIセットアップ研究助成

- (a) 研究責任者（PI）として、実施前々年度、実施前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは実施年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。
- (b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可。
- (c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可。
- (d) 45歳以下（実施年度4月1日現在）の研究者。

(4) 募集規模

①研究助成

- (a) 1件当たり200万円（助成期間は、2019年度以降2年間）
- (b) 採択件数：新規30件以内（継続分も含め、原則、55件以内）

②PIセットアップ研究助成

- (a) 1件当たり300万円（助成期間は、実施年度以降3年間）
- (b) 採択件数：新規5件以内

(5) 募集方法

当法人ホームページにて応募要領を掲載し、理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集する。

(6) 応募方法

- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長等並びに当法人の評議員、理事、顧問、褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。
- ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。
- ③推薦者は、応募者の中から応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。
- ④応募者は推薦書を取得後、当法人ホームページの助成Web登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信する。当法人事務局より確認連絡及び受付番号を取得後、当該申請書一式をコピーし、応募受付締切日までに当法人事務局宛に送付する。

⑤応募期間

(a) 研究助成：2019年4月1日～5月31日

(b) PIセットアップ研究助成：本年度休止（隔年実施）

⑥応募件数

(a) 研究助成：196件

(7) 選考方法

①研究助成

第20回選考委員会による選考結果をもとに、第36回理事会において30名の助成者を決定した。

（附属明細書 [資料-1]：2019年度当該助成採択者参照）

②PIセットアップ研究助成

選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成者を決定する。

(8) 助成金の交付

①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

②交付時期

(a) 研究助成：2回に分けて交付する（100万円/年度）。

初年度：2020年1月10日～2月20日に交付

次年度：2020年10月頃交付予定

(b) PIセットアップ研究助成：一括交付する（300万円）。

(9) 研究成果の公表

①助成者は、助成期間終了後、成果論文を当法人に提出する。

②助成者は、助成期間終了後、収支決算報告書を当法人に提出する。

③助成者の研究成果論文をもとに研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。なお、本年度は、研究助成、海外留学奨学助成の助成者の成果論文について、当該報告集Vol.35として2019年10月31日に発刊し、293箇所寄贈した。

④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

2.2 海外共同研究支援助成（定款第4条（2））

(1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

(2) 募集対象

①海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした海外渡航、或いは海外の研究者を招聘する者。

②助成対象期間：2019年7月1日から2021年6月30日に実施するもの。

③50歳未満（2019年4月1日現在）の研究者。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択件数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一

②応募期間：2019年1月15日～2月28日

③応募件数：22件

(6) 選考方法

第19回選考委員会による選考結果をもとに、第34回理事会において7名の助成者を決定した。なお、研究会・シンポジウム開催助成と併せた本年度の採択件数は10件となった。

（附属明細書 [資料-2]：2019年度当該助成採択者参照）

(7) 助成金の交付

①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

②交付時期：2019年6月20日から8月10日に交付

(8) 成果：実施終了後、実施報告書及び収支決算報告書を提出する。

2.3 研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条（3））

(1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

(2) 募集対象

①生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成。

②当該研究会・シンポジウムの規模は、国内・海外合わせて参加人員500名以内程度で、他の団体より大型の寄付を受けていないもの。

③助成対象期間：2019年7月1日から2021年6月30日に実施するもの。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択件数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一。但し、推薦書は不要。

②応募期間：2019年1月15日～2月28日

③応募件数：16件

(6) 選考方法

第19回選考委員会による選考結果をもとに、第34回理事会において3件の助成者を決定した。

(附属明細書 [資料-3] : 2019年度当該助成採択者参照)

(7) 助成金の交付

①交付方法：助成対象研究会・シンポジウムの指定銀行口座に交付する。

②交付時期：2019年7月19日に交付

(8) 成果：実施終了後、実施報告書等及び収支決算報告書を提出する。

2.4 海外留学奨学研究助成（定款第4条（4））

(1) 概要

海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

(2) 募集対象

①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下（2019年4月1日現在）である者。

②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。

(3) 募集規模

①1件当たり600万円（助成期間は、2020年度以降2年間）

②採択件数：5件以内

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は「研究助成」と同一

②応募期間：2019年4月1日～5月31日

③応募件数：52件

(6) 選考方法

①第20回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。

②2019年11月15日に選考委員長、他選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。

③第36回理事会において5名の助成者を決定した。

④その後、2名の辞退者があったため、理事会にて承認された手続きに則り、2名を繰上げて常務理事が面接を行い採択とした。

(附属明細書 [資料-4] : 2020年度当該助成採択者参照)

(7) 交付時期

2020年4月より原則年6回、2ヶ月毎に50万円を助成者の指定銀行口座へ入金する予定。

(8) 研究成果の公表 : 「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業 (公2)

3.1 研究業績褒賞 (定款第4条 (5))

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

(2) 褒賞名 : 第17回高峰記念第一三共賞

(3) 褒賞対象者

生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

(4) 推薦方法

① 理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員、褒賞受賞者 (高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞) に推薦を依頼した (但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く)。

② 推薦期間 : 2019年1月15日～2月28日

③ 推薦件数 : 19件

(5) 選考方法

① 第一次選考

第19回選考委員会において推薦候補者の選考を行い、6名の候補者が第二次候補者となった。

② 第二次候補者に対し、応募の意思の確認及び応募申請の要請を行った。

(6) 最終選考

① 第17回高峰記念第一三共賞審査委員会において、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

② 第34回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③ 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社のホームページに掲載した。

(7) 受賞者及び受賞研究テーマ

①受賞者：柳沢 正史博士（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 教授・機構長）

②受賞研究テーマ：「生体ホメオスタシス制御機構の解明と疾患治療への応用」

(8) 褒賞の方法及び贈呈

①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式を実施し表彰した（日時：2020年2月5日、場所：東京會館）。出席者数は43名。

③贈呈式において、受賞者の講演を実施。当日、受賞者の略歴・研究業績集を贈呈式参加者に配布した。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条（5））

(1) 概要

高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学术交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

(2) 名称：第36回高峰カンファレンス

(3) 開催方法：受賞者の意向により、本年度は筑波大学との共催とした。

(4) 会合名

The Joint Symposium of WPI-IHIS, Ph. D. Program in Humanics, and 36th Takamine Conference

(5) 開催の内容

①テーマ

「Fusion of Biomedical and Physical/Informational Sciences in Neurobiology」

②開催時期：2019年11月26日

③開催場所：東京コンファレンスセンター・品川

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演

(a) 記念講演

座長：猿田 享男先生（慶應大学名誉教授）

演者：柳沢 正史先生（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 教授・機構長）

演題：Toward the Mysteries of Sleep

(b) 講演

座長：柳沢 正史先生

（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 教授・機構長）

演者1：Ben Seymour先生

（Center for Information and Neural Networks, National Institute of Information and Communications Technology）

演題：An engineering approach to pain

演者2：Fumi Kubo先生（National Institute of Genetics）

演題：Function and connectivity of a visual circuit underlying optic flow processing in zebrafish

演者3：Henrik Bringmann先生（Philipps University of Marburg, Germany）

演題：Sleep：A worm's eye view

演者4：Hideaki Kato先生（The University of Tokyo）

演題：CryoEM analysis of the GPCR neurotensin receptor 1-G protein complex

⑤応募方法及び出席者数

募集期間（2019年9月26日～11月13日）を設定し、全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員、褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、筑波大学の参加者と合わせて合計180名の参加者を得た。

⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

2018年度研究助成採択者

25名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
明石 真	山口大学時間学研究所	逆進化的アプローチによる内在性メラトニンの機能解明
安部 力	岐阜大学大学院医学系研究科	延髄C1ニューロンを介する新たな免疫制御機構の解明
安楽 泰孝	東京大学大学院工学系研究科	ライソゾーム病治療を指向した革新的酵素補充療法の開発
池上 啓介	愛知医科大学医学部	網膜における概日光応答リズムが概日時計により制御される仕組みの解明
伊勢 渉	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	骨髄に存在する長寿命プラズマ細胞の可視化とその分子生物学的特性の解析
太田 茜	甲南大学大学院自然科学研究科	単一感覚ニューロンにおける温度記憶の成立に関わる分子の同定
金谷 高史	理化学研究所生命医科学研究センター	腸管SIgAを分解する腸内共生細菌の同定とその病原性の評価
加納 純子	大阪大学蛋白質研究所	ヒトの健康維持における染色体末端サブテロメア領域のクロマチン構造の役割
高阪 真路	国立がん研究センター研究所	ハイスループットがん遺伝子機能解析法のがんゲノム個別化医療への応用
佐藤 信吾	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	骨透明化技術を用いた骨の3次元構造解析と加齢・重力変化による骨量減少のメカニズムの解明
関根 俊一	理化学研究所生命機能科学研究センター	クライオ電子顕微鏡をもちいたネガティブ転写伸長因子NELFの構造解析
仙石 徹	横浜市立大学大学院医学研究科	酸化ストレス応答と発がんに中心的な役割を果たすNrf2の構造解析と阻害剤開発
谷口 浩二	慶應義塾大学大学院医学研究科	転移における炎症の役割の解明
内藤 尚道	大阪大学 微生物病研究所	血管に常在する血管内皮幹細胞を用いた人工血管の作製
中島 友紀	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	破骨細胞の新規制御分子の同定と機能解析
中嶋 悠一郎	東北大学学際科学フロンティア研究所	がん微小環境および進展を制御する全身性応答の分子基盤の解明
西山 正章	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科	クロマチンリモデリング異常による自閉症の発症メカニズムの解明と治療への応用
藤坂 志帆	富山大学医学部	CD206陽性M2マクロファージが肥満糖尿病状態での骨格筋損傷治癒機転に与える影響
保仙 直毅	大阪大学大学院医学系研究科	膵臓がんに対するCAR T細胞療法の開発

氏名	所属機関	研究課題名
細川 健太郎	九州大学大学院医学研究院	テロメア結合因子を用いた造血幹細胞操作技術の開発
向井 康治朗	東京大学大学院薬学系研究科	STINGを介したI型インターフェロン応答の収束機構の解明
森田 林平	国際医療福祉大学医学部	Gelsolinによるマクロファージ死抑制機序の解明と腫瘍免疫療法への応用
安田 貴彦	名古屋医療センター臨床研究センター	融合遺伝子陰性成人急性リンパ性白血病における遺伝子変異プロファイリングによる分子生物学的特性の解明
谷内江 望	東京大学先端科学技術研究センター	パーソナルインタラクトーム計測技術の開発
吉澤 拓也	立命館大学生命科学部	神経変性疾患に関与する液-液相分離性タンパク質の動的構造変化の解析

2019年度研究助成採択者

30名（100万円/年、2年交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関	研究課題名
伊藤 貴浩	京都大学ウイルス・再生医科学研究所	代謝リプログラミングによるがん進展制御機構の解明とそれに基づく創薬
井上 毅	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	稀少記憶B前駆細胞の同定及びその機能解析
海老原 敬	秋田大学大学院医学系研究科	アレルギー炎症におけるII型自然リンパ球の可塑性
岡本 徹	大阪大学大学院 微生物病研究所 高等共創研究院	HCVコア蛋白質の成熟化機構の解明
萩原 秀明	国立がん研究センター研究所	SMARCB1欠損がんにおける合成致死治療法の開発
小内 伸幸	金沢医科大学医学部	血液細胞分化経路における細胞系列分岐点の決定と急性骨髄性白血病の治療方法の開発
甲斐 歳恵	大阪大学大学院生命機能研究科	一塩基レベル分解能での小分子RNA塩基修飾の解析
金 倫基	慶應義塾大学薬学部創薬研究センター	腸内細菌による食物アレルギー抑制機構の解明
金城 雄樹	東京慈恵会医科大学	抗体産生及び細菌感染防御効果の持続をもたらす免疫学的機構の解明
笹栗 弘貴	理化学研究所脳神経科学研究センター	生体内塩基編集技術を利用した新規遺伝子治療によるアルツハイマー病治療
佐藤 佳	東京大学医科学研究所	シングルセル解析技術を駆使した生体内HIV感染細胞の不均質性の解明
佐藤 美由紀	群馬大学生体調節研究所	PINK1-Parkin非依存的ミトコンドリア分解の分子機構
塩田 倫史	熊本大学発生医学研究所	グアニン四重鎖によるDNA可塑性とRNAエングラムの解明
高橋 秀尚	横浜市立大学大学院医学研究科	新規転写伸長制御因子Med26の機能解明と抗腫瘍シークエンス開発基盤の構築

氏名	所属機関	研究課題名
高村 史記	近畿大学医学部	肺における滞在型メモリーCD8T細胞インフレーション機構の解明
滝澤 忍	大阪大学産業科学研究所	ベイズ最適化を活用する創薬シードの効率的探索研究
田中 都	名古屋大学環境医学研究所	死細胞センサーMincleによる炎症遷延化の分子機構解明
綱田 丈二	岩手大学農学部共同獣医学科	聴覚フィードバック療法からせまる吃音症の脳内機構の解明
富樫 庸介	国立がん研究センター研究所	腫瘍浸潤PD-1陽性制御性T細胞は「疲弊状態」にある
花岡 健二郎	東京大学大学院薬学系研究科	近赤外蛍光プローブの開発を基盤としたTheranosticsプローブの創製
早河 翼	東京大学大学院医学系研究科	粘膜増殖帯由来消化管癌の発生機序解析と標的治療～スキルス胃癌を中心に
平林 祐介	東京大学大学院工学系研究科	小胞体-ミトコンドリア相互作用によるニューロンネットワーク制御
福原 茂朋	日本医科大学先端医学研究所	血管新生におけるペリサイトの新たな機能とその破綻がもたらす疾患の病態解明
船戸 弘正	東邦大学大学院医学研究科	過眠モデルマウスを用いた睡眠の脳老化における影響の検討
松本 佳則	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	Toll様受容体に着目した難治性炎症疾患の病態解明と新規治療法の開発
三枝 理博	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科	<i>In vivo</i> 多層的活動計測による中枢体内時計の神経メカニズムの解明
柳谷 耕太	九州大学生体防御医学研究所	翻訳の一時停止の生理的役割を研究するため革新的手法の開発
山口 暢俊	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	植物細胞をモデルとした老化の基本原理の解明
山下 直也	順天堂大学医学部	神経細胞における逆行性シグナル異常を介したアルツハイマー病発症の分子機構の解明とその治療法への応用
吉田 善紀	京都大学iPS細胞研究所	iPS細胞を用いた骨髄異形成症候群の病態モデル構築に基づく病態マーカーの探索と新規治療法の開発

2019年度海外共同研究支援助成採択者

7名 (50万円交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	共同研究者	共同研究テーマ
伊川友活	東京理科大学 生命医科学研究所	Cornelis Murre Department of Molecular Biology, University of California, San Diego USA	新規non-coding RNA ThymoD のT細胞分化における機能解析
上原亮太	北海道大学大学院 先端生命科学研究院	MISHRA Mithilesh Tata Institute of Fundamental Research, India	光運動制御技術による細胞質分 裂の物理メカニズムの解明
河部剛史	東北大学大学院 医学系研究科	Alan Sher, Ph.D. Immunobiology Section, Laboratory of Parasitic Diseases, National Institute of Allergy and Infectious Diseases, National Institutes of Health, USA	新規のT細胞「MP細胞」の分化 機構の解明
齋尾智英	北海道大学大学院 理学研究院	Gottfried Otting The Australian National University Australia	常磁性プローブを用いた構造解 析による小胞体内タンパク質品 質管理機構の解明
SHARIF JAFAR	理化学研究所 生命医科学研究センター	Jens C Schwamborn Luxembourg Center for Systems Biomedicine (LCSB) Luxembourg	中脳オルガノイド培養系を用い た特発性パーキンソン病の分子 基盤解析
中奥敬史	国立がん研究センター研究所	Neil McDonald Signalling and Structural Biology Laboratory, The Francis Crick Institute, UK	キナーゼのアロステリック機構 を指標としたRET阻害剤の開発
原田浩	京都大学大学院 生命科学研究科	Gregg L. SEMENZA Johns Hopkins University USA	細胞の低酸素応答機構とがん抑 制機構のクロストーク

2019年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

3名（50万円交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究会・シンポジウム
石野良純	九州大学大学院農学研究院	第15回国際好熱菌学会 九州大学 医学部 百年講堂 2019年9月2日から2019年9月6日まで
西増弘志	東京大学大学院理学系研究科	第3回ゲノム編集国際会議 神戸コンベンションセンター 2019年11月25日から2019年11月27日まで
原英二	大阪大学微生物病研究所	国際細胞老化研究会(ICSA) 2020年度学術会議 大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪） 2020年11月2日から2020年11月5日まで

2018年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
浅島弘充	筑波大学医学部 School of Medicine, Yale University USA	抗原特異的T細胞の網羅的解析による多発性硬化症の新規バイオマーカー探索
川村俊輔*	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 ETH Zürich Switzerland	ミエロイド系細胞とリンパ球系細胞が分岐・分化する時系列とメカニズムの解明
中嶋優	東京大学大学院薬学系研究科 Chemistry Research Laboratory, University of Oxford UK	プロリン残基ヒドロキシル化を担うヒト由来 α -ケトグルタル酸依存性酸化酵素の結晶構造解析
横瀬淳	富山大学大学院医学薬学研究部 University of Texas Southwestern Medical Center USA	多種多様な感情表現を司る神経回路と統合メカニズムの解明 -感情創出の起源を探る-
若橋香奈子	神戸大学大学院医学研究科 Centro Nacional de Investigaciones Cardiovasculares (CNIC) Carlos III Spain	骨髄造血ニッチ制御因子としての好中球-成熟好中球の意外な役割-

*川村俊輔先生は、採択後、2017年12月20日付辞退。

2019年度海外留学奨学研究助成採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
荻野 広和	徳島大学大学院医歯薬学研究部 School of Medicine, University of California, San Francisco USA	転移性脳腫瘍における特異的ながん抗原の同定、および脳転移制御を目指した新規がん免疫療法の開発
鈴木 邦道	慶應義塾大学大学院医学系研究科 MRC laboratory of Molecular Biology UK	抑制性シナプスの微細構造的分類と次世代シナプスコネクターによる制御
名西 悦郎	九州大学大学院医学研究院 Boston Children's Hospital/Harvard Medical School USA	次世代アジュバントを用いた新規新生児・小児用ワクチンの開発
松宮 舞奈	京都大学大学院生命科学研究科 European Molecular Biology Laboratory Spain	体節形成疾患の <i>in vivo</i> 解析系の作製と新規原因遺伝子の同定
溝田 功	三重大学大学院工学研究科 Organisch-Chemisches Institut, WWU Münster Germany	α -イミノエステルの極性転換反応とイミニルラジカル種を活用したカルボニル化合物の α -アミノ化反応の開発およびそれを活用するワンポット創薬研究

2020年度海外留学奨学研究助成採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
伊藤 謙治	東京大学医科学研究所 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	有糸分裂終了後の娘細胞に細胞の運命が維持・継承されるメカニズムの解明
坂本 悠記	日本医科大学 The George Institute Australia	心房細動を有する心原性脳塞栓症患者の長期転帰改善を目的とした薬物療法の確立
富永 顕太郎	新潟大学大学院医歯学総合研究科 Division of Developmental Biology at Cincinnati Children's Hospital Medical Center USA	低分子化合物による腸前駆細胞へのリプログラミングと炎症性腸疾患における基礎・再生医療への応用
西田 純	東京大学大学院医学系研究科 Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School USA	単一細胞解析技術の統合による乳がん脳転移の時空間的不均一性の解明
藤田 幸	大阪大学大学院医学系研究科 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	神経回路の形成と損傷からの修復メカニズムの解明